



東北小だより

～学校教育目標～
なかよく元気な子
よく考える子
すすんで働く子

開校56年目

新座市北野3-1-1 Tel. 048-471-2022
HP <https://e-tohoku-c-niiza.edumap.jp/>

令和6年度2月号
全児童数 825名

みなさんの「幸福度」はいかがでしょうか

～ 笑顔いっぱい 歌声響く 東北小学校 ～

校長 齊藤 直之

寒い季節の中で、梅の花がほころび始めるたよりも届き、少しずつ春が近づいていることを感じます。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言いますが、本当にその言葉を実感するような速さで過ぎていきます。

日々、何かに急かされたように1日を終えるのはもったいないと感じている今日この頃です。

話は変わりますが、ユニセフの調査による「先進国の子どもの幸福度」をご存じでしょうか。

これは、先進38か国の子どもの幸福度を多面的角度で測る調査です。最新の結果によると、日本の子どもの幸福度総合順位で20位でしたが、分野ごとでは、身体的健康は1位でありながら、精神的幸福度は37位というほぼ最下位となっていました。様々な形で分析されていましたが、その中の一つの分析として、日本の子供は、衣食住は十分足り、体は健康そのものなのに、心は満たされていないのではないかと書かれていました。

私は、先日の全校朝会で、「幸せ」について話をしました。

「自分が花屋で買った花束」と「誰かからプレゼントされた花束」は、どちらがうれしいか、といったものです。

子供たちに問いかけると、誰かからプレゼントされたほうがうれしいと答えた人が多く見られました。

そこで、人の本質はすべてここに表わっていて、私たちに足りない力の一つは、「自

分で自分を幸せにする力」であり、自分で自分に優しい言葉をかけてもあまり心には響きませんが、人からもらった気持ちやプレゼントは、心に響きます。同じ物なのに、なぜ、うれしいのでしょうか、と話を続け、私たちがもっている力とは、「自分を幸せにする力」ではなく、「他人を幸せにする力」だと話しました。

私たちは、自分で自分を幸せにする力は与えられていませんが、人を幸せにする力は与えられています。そうすると、自分で自分にプレゼントを用意するよりも、お互いにプレゼントを用意して、交換し合うことこそが、私たちがすべきことなのだと思います。

自分が深く傷ついている時、「がんばれ、がんばれ」「大丈夫、大丈夫」と自分に言い聞かせることは大切なことです。でも、それ以上に大切なことは、誰にでも「がんばれ」「大丈夫だよ」と声をかけられる自分であり続けることだと思います。そうした自分でいられる人には、「がんばれ」「大丈夫だよ」と優しく声をかけてくれる仲間が、自然と集まってくるのではないのでしょうか。

このまとめの時期に、「あったか言葉」をお互いにプレゼントし合う関係を深めてほしいと思います。一人でも多くの友達を。一日でも多くの満足な幸せの日々を。東北小学校が幸せあふれる学校に。

私は、もちろん「幸せ」を分かち合える人として、「幸せ」に生きていきたいと思っています。